

除草剤 ピラクロニル・プロピリスルフロン粒剤 ビクトリー®Zジャンボ	農林水産省登録 第22839号 (協友アグリ(株)登録) 性状：類白色細粒 毒性：普通物(毒物及び劇物に該当しないものを指していう通称) 危険物：非該当 有効年限：5年 包装：(40g×10)×10 (在庫販売)
--	--

有効成分：ピラクロニル・・・5.0％
プロピリスルフロン・・・2.25％

除草剤分類	14, 2
-------	-------

ビクトリー®は協友アグリ(株)の登録商標です。

特長 ○広葉雑草に高い効果を示すプロピリスルフロンと殺草スペクトラムの広いピラクロニルから成る2成分の一発処理除草剤です。 高葉令のノビエ(3葉期)も防除が可能で、クログワイやコウキヤガラ等の多年生雑草防除雑草にも高い効果を示します。
--

適用雑草名及び使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法	ピラクロニルを 含む農薬の 総使用回数	プロピリスルフロンを 含む農薬の 総使用回数
移植水稻	一年生雑草 多年生広葉雑草 アオミドロ・藻類に よる表層はく離	移植後5日～ ノビエ3葉期 ただし、収穫60 日前まで	小包装 (バック) 10個 (400g)	2回以内	水田に 小包装(バック) のまま投げ入れる。	2回以内	2回以内
直播水稻	一年生雑草 ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類に よる表層はく離	稲1葉期～ ノビエ3葉期 ただし、収穫60 日前まで	小包装 (バック) 10個 (400g)	2回以内	水田に 小包装(バック) のまま投げ入れる。	2回以内	2回以内

使用上の注意事項

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに時期を失しないように使用してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に使用するようご注意ください。ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の使用適期です。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。
- 藻類または表層はく離の発生しやすい水田では、有効な剤との組み合わせで使用してください。
- 苗の植え付けが均一になるように整地、代かきはいねいに行い、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除いてください。
また、未熟有機物を施用した場合は特にいねいに行ってください。
- 処理に当っては、水の出入りを止めて5～6cmの湛水状態に保ってください。処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じてください。
- 本剤は小包装(バック)のまま、10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れてください。
- バックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することがないようにご注意ください。
- 梅雨期等、処理後に多量の降雨が予想される場合には、除草効果が低下することがあるので使用をさけてください。
- 本剤は、移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用してください。
- 前処理剤との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失わないように適期に使用してください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病虫害防除等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

安全使用上の注意事項

- 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、ぬれた手で触らないでください。
- 水溶性フィルム包装が破袋した場合は、眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。

水産動植物に係る注意事項

- 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管に関する注意事項

- 密封し、直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に保管してください。
- 吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管してください。
- 袋の中身のバックは強く圧するとフィルムが破れるおそれがあるので注意してください。